



令和 8 年 5 月 18 日
午前・午後 8 時 30 分 受領

No. 1

令和 8 年 5 月 18 日

議長	事務局長	係

愛南町議会議長 吉田 茂生 殿

愛南町議会議員 尾崎 恵一

一 般 質 問 通 告 書

次のとおり通告します。

質 問 の 要 旨	答 弁 を 求 め る 者
<p>1. 南宇和高校叶夢センターの運営体制と人材確保について</p> <p>南宇和高校叶夢センターは、令和 4 年 12 月に開設され、地域おこし協力隊の講師 5 名体制でスタートしたと承知している。</p> <p>当初 80 名程度であった受講生も、現在では約 130 名まで増加しており、学習支援や進路支援等を通じて、南宇和高校の学習環境の充実や魅力向上に一定の成果が見られているものと認識している。</p> <p>一方で、これまでに講師の退職や地域コーディネーターへの異動等もあり、現在は開設当初より少ない人数での運営となっており、受講生が増加する中で、講師体制の維持が課題となっている。</p> <p>また、地域おこし協力隊として従事していた講師については、任期満了後に会計年度任用職員として継続雇用されていると伺っている。</p> <p>叶夢センターにおける支援は、単なる自習室管理ではなく、学習支援、進路相談、面接・小論文指導など、生徒一人ひとりへの伴走型支援を行う取組であり、その成果は、講師の資質や継続的な配置に大きく左右されるものと考える。</p> <p>全国の高校魅力化の取組においても、指導人材の確保と継続的な配置が成果に影響する事例が多く見られることから、今後、南宇和高校の魅力向上を持続的に進めていくためには、叶夢センターの運営体制の安定化と、講師の継続的な人材確保が重要な課題であると考える。</p>	教育長

そこで、以下の点についてお伺いする。

- (1) 叶夢センターのこれまでの取組について、受講生の増加などの状況を踏まえ、町としてどのように評価しているのか。
- (2) 今後の叶夢センターの運営体制について、現在の地域おこし協力隊及び会計年度任用職員を中心とした体制をどのように維持・発展させていく考えなのか。
- (3) 叶夢センターの持続的な運営のためには、講師の継続的な人材確保と安定した処遇が重要であると考えているが、この点について町としてどのように取り組んでいく考えなのか。